

アイルランド上院での平和首長会議会長・広島市長スピーチ(2024年10月23日)

アイルランド上院 (Seanad Éireann) 議員の皆様、下院 (Dáil Éireann) 議員の皆様、御列席の皆様。Dia daoibh, a chairde (友よ、神と共にあらんことを)。

アイルランド自由国設立以来、100年以上の歴史のある議会 (Oireachtas) にお招きいただき、スピーチをさせていただくことは大変光栄であり、この機会を私に提供していただいた上院議長 (Cathaoirleach) ジェリー・バティマー閣下、また、昨年2月の広島訪問以来、広島との関係強化に尽力していただいた下院議長 (Ceann Comhairle) ショーン・オフアイル閣下、並びに、上下両院議員の皆様方の御支援、御配慮に心より感謝申し上げます。

自然豊かな緑の美しい国アイルランド、文化芸術の国アイルランドに初めて訪問でき、また、アイルランドの苦難と成功の歴史を見てきた、ここレンスター・ハウスを訪問できて誠に嬉しく思います。

数百年にわたり、苦難の歴史を経験してきたアイルランドの皆さんは、人の痛みがわかり、平和を求める心がとりわけ強い市民です。2021年に発効した核兵器禁止条約の作成、署名、締結の推進のため、アイルランドが先頭に立って努力されたこと、罪のない一般市民を守るための人道イニシアティブに取り組み、2022年にダブリンでEWIPA（人口密集地における爆発性兵器）に関する政治宣言としてまとめたことなどは、国際的に高く評価されており、これは、アイルランドの皆さんの強い支持を基に、推進されたものと思います。

ノーベル賞受賞のシェイマス・ヒーニーは、日本でも、暴力、紛争への民衆の怒り、悲しみを表現した詩人として尊敬されています。どんな困難に直面しようとも、希望を持ち続けることが重要と謳った詩は、世界の人々の心に共鳴します。

*History says, Don't hope
On this side of the grave.
But then, once in a lifetime
The longed-for tidal wave
Of justice can rise up,
And hope and history rhyme.

** (日本語訳)

“歴史は語る「墓の
こちら側で希望を抱くな」
だが、生涯で一度、
待ち望まれた正義の
津波が巻き起こり、
希望と歴史が一致することがありうる。”

広島もまた、1945年の原爆投下により、子どもを含む多くの一般市民が犠牲になりました。これは過去の出来事ではなく、今なお被爆者は、原爆後障害に苦しんでいます。我々広島市民は、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない。」との被爆者の思いを抱き、核兵器のない、また、戦争のない世界を目指して平和活動に取り組んできました。これからも、世界中の人々とともに、人権と人道イニシアティブを支持していきたいと考えています。

8歳で被爆した八幡照子さんは、「凄惨な現場、悲しみを直接、自分の声や言葉で伝えたい」と決意し、83歳から英会話学校に通い、世界中で英語で被爆体験を語っています。八幡さんは、こう訴えます。「今、一発の核兵器が使われたとしたら、人類は滅亡に向かいま

す。被爆の体験を伝え、世界に警鐘を鳴らし続けることが、今を生きる私にできることです。」

そして、被爆者のこれまでの献身的な活動に対して、今年のノーベル平和賞は日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）が受賞することが発表されました。

1982 年、当時の荒木広島市長が国連総会で、世界の市民レベルの平和の連帯の必要性を訴え、平和首長会議の運動が始まりました。今や 8,400 を超える都市が参加する世界でも例を見ないネットワークに発展しており、アイルランドからは、首都であるダブリン市を始め 13 都市が加盟しています。

ロシアのウクライナ侵攻、核兵器による脅し、中東情勢の深刻化、大国間の緊張の高まりなど、世界の安全保障情勢は悪化しています。核兵器禁止条約が採択されたものの、世界は再び核軍拡に向かうのではないかと懸念しています。今こそ、平和を求める市民の声を集約し、市民レベルの平和の連帯の強化が求められているのではないのでしょうか。

平和首長会議は、世界恒久平和のため、核兵器の廃絶と共に、持続可能で強靱な都市実現を目指して活動していますが、それを推進するために、平和文化の振興を最も重視しています。日常生活の中での音楽、芸術、スポーツなどの市民レベルでの交流を国境を越えて行うことで、価値観を共有することができます。

豊かな文化を有するアイルランドの皆さんは、世界で平和文化を先導することができます。そのためにも、多くのアイルランドの都市が平和首長会議に加盟していただきたく、議員の皆様による加盟働きかけの御協力に感謝申し上げます。

本年 9 月、国連において未来サミットが開催されましたが、次代を担う若い世代を巻き込んで平和活動に取り組むことが重要です。アイルランドの皆さん、特に、若い世代の方には、是非、広島を訪問し、被爆の実相を学び、広島市民と交流していただきたいと思います。アイルランドと広島の関係が益々発展することを期待し、私のスピーチを終わります。

* Quoted from "The Cure at Troy" by Seamus Heaney, published by Faber and Faber Ltd. All rights reserved.

** シェイマス・ヒーニー作／小沢 茂 訳「トロイの癒しーソポクレス『ピロクテテス』の一変奏」（国文社、2008、P130）より引用。